

地盤情報を活用した首都直下型地震に対する宅地防災検討委員会 第2回委員会 議事録

日時：平成31年4月22日（月）

時 間	14:00~17:00		場 所	地盤工学会 3F 大会議室	
清木 隆文 委員長	○	龍岡 文夫 顧問		王寺 秀介 幹事	○
穴太 聖哉 委員	○	石川 敬祐 委員		大井 昌弘 委員	○
落合 努 委員	○	木村 克己 委員	○	小荒井 衛 委員	
後藤 聡 委員		佐々木 修平 委員	○	芝村 圭 委員	
末政 直晃 委員	○	鈴木 一成 委員		鈴木比呂子 委員	○
関口 徹 委員	○	武田 啓司 委員		塚本 良道 委員	○
辻 浩平 委員	○	細川 聡美 委員	○	丸山 昌則 委員	○
三上 武子 委員	○	安田 進 委員	○	山口 恵美 委員	○
吉澤 睦博 委員		渡邊 康志 委員		和田 里絵 委員	○
辻 昌宏 オブザーバ		西 喜士 オブザーバ			

議事： ※委員敬称略

1. 委員長挨拶

- ・ 委員長より、本日の検討事項の概要の説明があった。

2. 前回議事録の確認

- ・ 前回議事録の確認を行った。

3. 話題提供：戸建て住宅供給側からの地盤に関する課題

- ・ SWS の手動・半自動式と全自動式では値にどの程度の違いがあるのか。
→全自動式は値が小さめに出る傾向にある。人間の実施によるムラが少ないためと考えられる。
- ・ SWS による地盤の支持力算出式は建築学会推奨式が一番利用されているようである。
- ・ 住宅メーカーでは基礎の地盤判定に型式適合認定のフローが利用される場合が多い。
- ・ 多くの住宅メーカーが液状化判定を実施。会社によっては SWS を使用している会社もある。

4. 委員会の取組について

- ・ 3WG の主査と副査に実施方針案を説明して頂き、実施内容について議論した。
- ・ 本委員会での**最終目標は、書籍「新・関東の地盤」の出版に向けた流れを作る**こととする。

(1) 地盤情報の収集整理・地盤モデルの高精度化に関する検討（WG1）

- ・ 国土地盤情報センターでは昨年度約 4000 本(国交省)のボーリングを収集し、今年度幾つかの自治体のデータを取り込む予定。
- ・ JGS 九州支部では地盤情報 DB(第 3 版)を 3 月に販売した。新たに追加されたボーリング数は約 18,000 本である。
- ・ 土質試験結果もデータベースに取り込んだほうがよい。
- ・ 三次元グリッドモデルのプログラム公開は若干遅れ気味であるが、実施する予定である。
→モデル作成の講習会を実施するなら参加したい。

【今後の進め方】

- ・ 関東地方の自治体、民間会社（鉄道、インフラ等）等のボーリングデータの状況を調査する。
- ・ 三次元グリッドモデル講習会の実施の有無を検討する。希望者がいる場合は委員会予算で実施することも可能。

(2) 地盤モデルを用いたハザードマップの高精度化に向けた検討（WG2）

- ・ WGの方向性としては、3次元地盤モデルを構築し3次元解析を実施することで、より精度の高いハザードマップを構築できるという流れができるという流れがよい。
- ・ 関東大震災では、墨田川の右岸側（台東区）で表層5mの地盤が地震被害に大きな影響を及ぼしたとの報告もあり、局所的な被害の検討にはSWSの活用が有効と思われる。
- ・ 2次元・3次元の効果がより鮮明に表れる地域（横浜市、鎌倉市等）で検討してはどうか。

【今後の進め方】

- ・ 検討範囲として、2次元・3次元の地盤の効果がより鮮明に表れる地域の選定を検討する。範囲は広くなくてよい。併せて、検討地域のボーリングデータの収集も検討する。

(3) サウンディングデータの活用方法の検討（WG3）

- ・ SWSは、データ数は多いが、これまであまり活用されてこなかったもので、よい機会である。
- ・ SWSの土採取装置の普及状況について、ほとんど実施されていないのが現状である。
- ・ SWSの地下水位計測について、一般的にSWSの試験孔を用いて測ることが多いが、会社によって計測方法が異なり、精度も高くない。
- ・ 東日本大震災の後、PDCを多数実施したが、液状化被害を説明する情報は得られなかった。
- ・ 本委員会内の研究目的でSWSを使用する場合は、利用限定、エリア限定でSWSデータを入手することも可能である。

【今後の進め方】

- ・ WG3は本委員会では初めての取り組みのため、引き続きメール審議等で実施方針を検討する。

5. その他

- ・ 「新・関東の地盤(2014年版)」は、寄贈予備分含め残り30部程度ある。関東地域の地盤の解説書の役割もあるため、「新・関東の地盤(第3版)」の作成も同時に進めてほしい。